

長研究主査が資源循環型ものづくりシンポジウムでIMS最優秀賞を受賞

エネルギー応用研究所都市・産業技術グループ産業エネルギーチームの長研究主査が、平成24年に発表した「水系洗浄剤向け過熱水蒸気式高速乾燥装置」の開発により、第17回資源循環型ものづくりシンポジウムにおいてIMS最優秀賞を受賞されました。同賞は、環境負荷やエネルギー消費の削減に貢献する技術開発に対し、その開発企業・団体を賞揚するものです。金属製品の乾燥において、従来方式では1時間以上必要とされていたものを、本開発方式では3分以内の短時間の乾燥を可能としました。これにより、工場の洗浄工程において、環境

負荷の大きい溶剤系洗浄剤から、無害で安全な水系洗浄剤への転換導入が容易になりました。この技術が高く評価されたもので、共同研究先の株式会社ナステックおよび株式会社大同との連名での受賞となりました。



受賞された長研究主査

原子力安全技術研究所 公募研究の募集・採択の結果について

昨年7月に設置された「原子力安全技術研究所」では、原子力発電のさらなる安全性向上と運営改善に資するため、現場に密着した研究を実施するとともに、将来にわたる原子力の安全利用のための研究にも積極的に取り組んでいる。

こうした取り組みの一環として、2012年10月から2か月間、幅広く研究テーマの公募を行った。これに対して、全国から合計81件と多数の応募があり、社外の学識経験者等で構成する「アドバイザー・コミッティ」による審査を経て、13件の研究(下表)を採択した。

応募81件の内訳は、全国の国・公・私立大学から54件、研究機関17件、静岡県内に事業所を持つ企業から10件となっており、領域別に見ても幅広い提案があった。その中で採択された13件については、これまでにない独創的な研究である点、現場への適用や実用化が期待でき



る点、地域への大きな貢献が期待できる点などが評価されたものである。

採択された研究は、2013年度から研究を開始し、今後年に1回程度、研究発表会を開催して地域の方々にも研究内容や成果を公開していく予定である。

研究分野(採択件数/応募件数)	研究テーマ名	研究代表者(敬称略)
原子力の将来技術に資する基礎基盤的研究(5/27)	空気冷却器を利用した崩壊熱除去システムに関する研究	福井大学 望月 弘保
	トリウム熔融塩炉の苛酷事故ソースタム評価手法の構築を目指す基礎的研究	福井大学 山脇 道夫
	放射性物質の同定と分布状況を表示可能な放射線画像検出アレイの開発	名古屋工業大学 ニラウラ マダン
	シリカエアロゲルを用いたリアルタイム90Srカウンターの開発	千葉大学 河合 秀幸
	遠隔方向検知ガンマ線計測の研究	静岡大学 青木 徹
原子力発電所の安全性向上に資する研究(5/35)	配管亀裂発見の早期化と放射性物質漏洩防止の研究(シリコンコーティング)	丸大鐵工株式会社 長松 孝俊
	流動加速腐食における減肉箇所の予測高度化に関する研究	名古屋大学 辻 義之
	地震荷重により構造物に蓄積された疲労損傷の可視化技術と健全性評価	東北大学 渡邊 豊
	高比重消波ブロックの耐津波安定性評価手法の構築	名古屋大学 水谷 法美
	放射性セシウムおよびトリチウムの環境中でのダイナミックス	静岡大学 大矢 恭久
浜岡原子力発電所1,2号機の廃止措置の改善に資する研究(2/14)	廃棄乳オゾンドを利用した除染水の処理と減容化	静岡大学 齋藤 隆之
	レーザー除染条件の明確化と粉塵飛散防止機構の研究	光産業創成大学院大学 藤田 和久
浜岡原子力発電所3,4,5号機の保守性・作業性の向上に資する研究(1/5)	後方散乱X線CTIによる大型構造物の非破壊検査技術の開発	名古屋大学 山崎 淳